

大阪府教育センター附属高等学校



「探究ナビ」の実践

—新たな「学び」が、ここから始まります。—

教頭 恩知 理加

首席・探究科主任 山元 聡

第12回 高大連携教育フォーラム 平成26年12月5日(金)

高大接続と学力形成 実践事例紹介 > 1

- » 学校の概要
- » 新たな学び
- » 附属ならではの「探究ナビ」

- > 内容

- コンセンサス実習授業「月で遭難?!」

- > 成果

- > 今後に向けて

実践事例紹介の流れ



府立高校の さらなる特色づくり推進事業 平成23年度からスタート!!

- » 『進学指導特色校』10校
- » 『教育センター附属研究学校』
- » 『新たな専門学科(体育科)』摂津高校

設立の経緯

- 大和川高校50年の歴史を受け継ぎ、
全国初の「教育センター」附属高校スタート
- 「大阪府教育センター」と連携し、ナビゲーションスクールとして、大阪府の教育を先導
- 大学や外部機関と連携し多彩な授業を実施
- 「生徒中心の教育」
アクティブラーニングを授業に導入

基本方針

学びのクローバー



本校のシンボル

学年	1	2	3	計
クラス	8	6	6	20
男	134	118	100	352
女	151	111	128	390
計	285	229	228	742

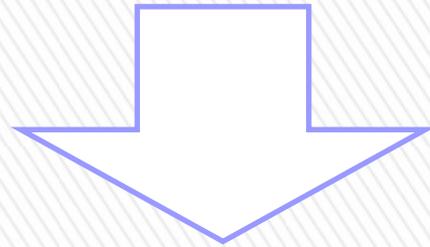
クラス数 & 在籍数



授業風景

発見 自信
探究 感動

**講義型の授業 知識の注入
教師から生徒への一方通行**



**生徒が主体的な活動を通じて
学習していくスタイルへ**

キーワードは

アクティブラーニング

(生徒主体の授業)

キーワードはアクティブラーニング (生徒主体の授業)



探究ナビ I

プレゼンテーション



発見 自信

探究 感動

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
1年	国語総合				現代社会			数学Ⅰ			数学A		化学基礎			体育			保健		芸術選択		コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現基礎		家庭基礎		社会と情報		探究ナビⅠ		集中講座

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
2年	現代文B			古典B		世界史B		地歴選択		数学Ⅱ				理科選択		理科選択		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		A		B		探究ナビⅡ		集中講座	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
3年	現代文B		古典B		世界史B		地歴選択		数学選択		体育		英語Ⅱ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		理科選択		①		②		③		④		⑤		探究ナビⅢ		集中講座
																			理数理科選択		数学Ⅲ												

1年次:基礎・基本の徹底 国語:増単位 英語・数学:習熟度別少人数展開

2年次:生徒の興味・関心、進路希望に応じて、選択科目を幅広く設定

3年間を通じた「探究ナビ」(LHRと合わせて3単位)

1年:人とつながる 2年:社会とつながる 3年:未来を拓く

カリキュラムの特徴



新たな「学び」が、
ここから始まります。

本校の教育活動の柱

「探究ナビ」

— 自己の可能性を最大限に引き出し、

将来の自分に投資する授業—

探究ナビ

(学事出版：月刊高校教育9月号参照)

身に付いた力	事前		事後	伸び率
人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、 自分から進んで取り組む力	54	→	72	18
言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して、 粘り強く行動する力	47	→	63	16
目標を達成するために 解決すべき問題を見つける力	54	→	69	15
学校で学んだことや体験したことを自分の生活や まわりの人たちの仕事に 結びつけて考える力	42	→	64	22
伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	35	→	62	27
自分の考えをわかりやすく整理して、 相手に理解してもらえらるるよう伝える力	37	→	57	20

今の自分に

この力は付きましたか？ (3期1年)

前より伸びた自分を実感して、
自分を見直した。

66

自分のためにこれからも
いろいろな事を学びたい。

84

これからの勉強や活動で
難しいと思うことがあっても
自分なりに努力したい。

82

あなたは、今の自分やこれからの勉強に
ついて、どのように思っていますか？

(1期3年)

将来、仕事をするということは
夢があると思う。

84

将来、どんな仕事につきたい
か希望をもっている。

82

社会で起こるいろいろな
出来事に興味をもっている。

66

あなたは今、将来の仕事や社会のこと
についてどのように思っていますか？

(1期3年)

» 「探究ナビ」で育成すべき資質・能力は
ねらい通り、身に付いている。



» 教科等を横断する汎用的なスキル
問題解決、論理的思考、
コミュニケーション、意欲、自己調整

成果 生徒

» 授業で考える力を育成するために、指導方法の改善や研究に努めている。

肯定的評価 90%

» 全ての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫を凝らしている。

肯定的評価 86%

成果 教員

» 評価

身に付ける資質・能力ー学習内容ー学習評価
ペーパーテストだけでは測れない学力をどのように行うか
「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」【※1】

» 探究科と一般教科とのつながり【※2】

カリキュラムマネジメント

» 施設・設備（ICT環境を含む）

» 生徒の変容や個別記録の分析

今後の課題

【※1】多様な学習成果の評価手法に関する調査研究

「探究ナビ」で行っている探究的な学習活動を数学・理科・外国語等の教科にも応用する。コミュニケーション能力（聴く力、調べる力、説明する力、協同する力）、課題を探究する能力や態度等ペーパーテストだけでは測りにくい幅広い資質・能力について、それを実現するための具体的な指導内容と学習評価を一体的に捉えた学習プログラムを作成し授業実践を行う。

観点別評価、ルーブリック等を活用したパフォーマンス評価やポートフォリオ評価などの手法を用いて、学習を通して、生徒が自立し主体的に自らの進路を切り拓いていくために必要な力を身に付けることができたかどうか、その実現状況を把握するとともに、学習プログラム改善に活かし調査・研究を進めていく。

調査研究

【※2】

» 博物館と連携したPISA型学力の養成の効果

① モンゴル恐竜化石展における探究及びプレゼンテーション

> ワークシートに沿って観察・自分の考えを導き出し発表

② 博物館を中学生に向けて紹介

> パフォーマンス課題を与えて成果を相互評価

③ 課題提示型学習

> 仮説を立て博物館の標本と実験器具を活用して検証する

理科の探究的な取組

自らの進路を切り拓く

ことができる人材の育成

「自己理解、前に踏み出す力」

「豊かな感性」

「コミュニケーション能力」

「国際的な視野」

「論理的思考力、判断力、表現力」

「将来設計、行動力」 など

卒業後

「生きる力」の基盤となる
コミュニケーション能力
人とつながる力を育成する

【身に付ける4つの力】
「聴く力」「質問する力」「説明する力」
「チームで協同する力」

探究ナビⅠ

» はじめての班活動 友達紹介のワーク

自分の隣に座った人の自己紹介を聴いて、後で他のメンバーに紹介する

» ブレーンストーミングの学びの実践

例えば、なぞかけを題材に思いついた言葉を次々と当てはめていく。

「部活とかけて **オリンピック** ととく、

そのころは、どちらも **せいか(成果・聖火)** があるでしょう」

» 班での合意形成実習「月で遭難」

協力することの大切さを実感する。

» 震災や仕事に関する調べ学習

ポスターにまとめてクラス発表や学年発表を行う。

1学期

» 商品開発プロジェクト(NTTドコモと連携)

「理想のケータイを開発しよう」

- > KJ法で、付箋でケータイの「困った所」と、「あったらいいと思う所」をあげ、両者を整理して項目ごとに題を付け、クラスで各班のアイデアを共有
- > 中間発表 書画カメラで商品案を投影して発表
- > NTTドコモの社員の方や、生徒同士で批評し合い、さらにアイデアを改善する。その後、最終発表に臨む。
- > 「夜空を身近に感じられるよう、星をくっきり写せる高機能カメラを搭載したらどうか」を発表した班が多くの支持を得た。

2学期前半

» 「ちくちく言葉・ふわふわ言葉」のワーク

- > 自分がきいて「嫌になる言葉」「嬉しくなる言葉」を1人が3つ書き、クラス全員の書いた言葉を黒板に書き出す。
- > それぞれの言葉を9つずつ選び、ダイヤモンドランキングで順位付けをする。

2学期前半

- » 「かわいい」というのが好きな言葉の高いランキングになったが、自身としては、お世辞に聞こえて、いい気持ちがない言葉だ。「かっこいい」を同じように受け取る男子もいた。
- » Tさんは「人によって言葉の感じ方が違うことを知り、発言する前に止まって考えるようになった。相手の気持ちを考えて話すようになると、班での話がまとまりやすい」
- » この体験を、今は野球部のマネージャーとして、将来は医療事務の仕事に就いて生かしたいと考えている。

2年生のTさん

» 演劇的手法による表現方法を学ぶ

- > はじめに劇団の即興演劇を鑑賞し、コミュニケーションゲームをした後、**ランダム**に班分けをする。
- > 各班ではテーマを決め、登場人物、場所などを話し合いながら芝居のプロットを考え、台本を作る。立ち稽古をし、小道具を用意してクラスの前で演じる。
- > クラス代表は教育センターの大ホールで最終発表会を行い、劇団員の外部講師からも講評してもらう。

2学期後半

就職試験に落ちた主人公が、立ち直るまでを描いたストーリーにした。

あらすじは決まっているが、台詞は即興で、全員でつくる。

「お互いの意見を出し合って、高めあうことができた。積極的にアドリブで話ができるようにもなった。プレゼンカやリーダー力をさらに磨きたい」

2年生のKさん

- >「自主的に生き生きと活動している。教科の授業でも発表に工夫が見られ、グループワークも上手くなった。ポンとはじけて自分を出せるそんな機会が与えられたのかな」と感想を語る。
- >演劇活動終了後の生徒のアンケートからは、シナリオづくりの過程で、班内に様々な軋轢が生じ、配役の決定や進まない脚本、活性化しない話し合い、そんな中、発表の日時だけが迫ってくることへの焦りなどの記述があった。生徒にとっては、相当の負荷もあり、楽しいだけの授業ではないようだ。しかし、多くの生徒が、アンケートの最後に「～だったけど、やってよかった」「～の力が身に付いた」など肯定的な記述をしており、困難や課題を乗り越えながら成長している様子や、最後には達成感・成就感を味わっていることが読み取れる。
- >演劇の授業は海外では教科として行われているが、国内での事例は少なかった。先進校への視察を重ね、大阪大学の蓮行特任講師、プロの演劇人など、専門家にも企画委員としてプログラムの作成に加わってもらった。演劇活動は、良好なコミュニケーション活動を図るため、自分の役割、相手との関係の取り方、ストーリー展開、それらをお互いに討議し、意見を摺り合わせながら1つにまとめていくのに効果的だと教員間の共通理解が生まれた。

学年主任の菰口教諭

演劇を経験した後にはどのような力が身に付くのかを、現在、評価方法も含め、研究しているところです。

もしかしたら、結果が出るのは社会人になってからかもしれない。

多くの人の中で生きていく時、『あの経験がきっかけだった』と思ってもらえる事があると嬉しい。



授業の様子

自然や社会とのかかわりへの関心を高め、
社会とつながる力を育成する

【身に付ける5つの力】

「感じる力」「かかわる力」

「気付く力」「計画する力」

「多面的・多角的に考える力」

探究ナビⅡ

» iPadで発表する方法を学ぶ

» インタビュー手法を学ぶ

> 校内の先生にインタビューし、先生を紹介するkeynoteを作って発表をする。

» 講演と街歩きワークショップ

(住吉区役所や社会福祉協議会と連携)

> 防災、歴史・文化などの分野に分かれて、地域を実際に見学する。

> 歴史・文化フィールドワークでは、神社や近隣中学校敷地内にある、石器時代のナウマン象の足跡などを見学した。

1学期・2学期前半

» あびこの街を考える

- > テーマは「歴史・文化」「防災」「子育て」「高齢者・障がい者」「地域課題」の5分野から選ぶ
- > 校外で、アンケートやインタビュー調査を行う。
- > iPadを利用して写真や動画の撮影も行い、調査結果を分析・考察して発表する。
- > まとめとして、あびこの街に対する提言を発表するというものだ。

2学期後半

- » 子どもの遊び場の確保について調べた。声を掛けても「忙しいから」と、通りすぎてしまう人もいてインタビューの難しさを感じた。しかし、どうにか通行人や商店の方へのインタビューをすることができた。
- » 「話し合うことでみんなと仲良くなれたと思う。何度も発表をして、わかりやすく説明することを学んだ。
- » 教えることが面白くなり、教師になりたいと思うようになった」学習に対する意欲も上がり、試験の点数も伸びた。
- » 1年生の勉強合宿にはアシスタントティイチャーとして参加する。

3年のYさん

- » 最優秀班は、住吉区役所主催の「すみよしの魅力再発見フォーラム」で発表
- » 地域の「大依羅神社」について調べ、御祭神やその由緒、行事などをA4両面写真入りのパンフレットにまとめた。校外で「『大依羅』を何と読みますか」という質問を行い、ほとんどの人が読めなかったことや、インタビューで知った神社の魅力を、観客参加型の発表で興味を惹いた。
- » 「大学生や大学教授の中に混じっての発表は緊張したが、班員みんなが発表できるようになった。発表後に感想を言ってもらえると、大きな力になる」と話す。
- » 部活動の茶道部と美術部の有志で参加した「堺の国際文化発表会」でも、探究ナビの経験を生かすことができ、最優秀のフランシスコザビエル賞を受賞することができた。調査したのは「世界と堺をつなぐ」と題した、南蛮貿易のこと。「資料の裏付けの正確さや、演劇的手法を織り交ぜた発表方法が最優秀賞の決め手だったのでは」と振り返る。

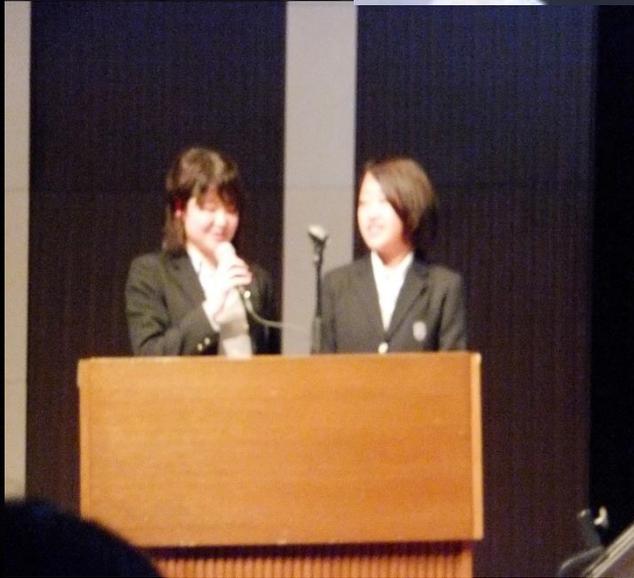
発表した3年生のHさん

「広範囲の地域から通って来ている高校生だからこそ、高校のある地域にも愛着をもってもらいたい」

講師のすみよし歴史案内人の会のYさん

「住吉だけでなく、これから接するであろう地域に自分自身の視点をもって接してほしい」

区役所教育文化課の松永さん



私達の視点

神社の知名度

↓

why??

地域の人々がどれ位自分の地元のものに関心があるか

授業の様子

社会の一員として、主体的・創造的に課題を解決し、**未来を拓く力**を育成する

【身に付ける4つの力】

「企画する力」「望ましい解決をめざす力」

「発信する力」「社会に参画する力」

探究ナビⅢ

- » 総まとめとして班で興味のある題材を選び、課題探究を行う。
- » テーマは、東京オリンピック、防災、犯罪防止などのタイムリーなものから、ラーメン、大和川高校の歴史などローカルなものまでである。情報収集の方法も現地でのアンケートや取材、博物館や図書館での資料収集、実験・観察など多様である。1月の最終発表会も、iPadやPCを駆使した発表や、演劇的手法を用いた発表など多様であった。

課題研究

- » 課題研究で「探究ナビ」について調べ、1期生全員にアンケートを行った。大多数が、探究ナビがあっ
てよかったと答えた。
- » 「タイプの違う人もいたけれど、相手の気持ちや意
見を否定せずに、話し合いを持ち、理解した上で意
志決定することができるようになりました。今の生活
に生かされています」中学校時代は、人前で話すこ
となど考えられなかった元さんだが、探究の授業を
経験して、どんな場面でも、堂々と話せるようになっ
た。

1期生Hさん



新たな「学び」が、ここから始まります。



大阪府教育センター附属高等学校
Osaka Prefectural Education Center High School established in 2011



探究発表会
3年次：1月15日
2年次：2月 5日
1年次：2月12日
是非一度
見学ください

